

ごみ減量化施策提言書

平成 28 年 3 月 14 日

たつの市ごみ減量化推進会議

目 次

はじめに	1
1 現状	2
2 昨年の提言に基づき実施された施策	4
3 提言	10
4 資料	12

はじめに

今日、環境保全は、私たちが生きていくうえで極めて重要な課題となっています。経済の発展とともに大量生産、大量消費型の社会となり、その一方でごみの排出量が大きく増えています。また、世界のいたる所で資源の大量採取による自然破壊が進み、ごみを処分するときに出る二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球温暖化など、深刻な環境問題を引き起こしています。

たつの市ごみ減量化推進会議では、少しでもこれらの問題に対する助けになればと、ごみの減量化のため施策の提言を行ってきました。そして、市で事業を実施していただくことにより、市民の環境意識が高まり、ごみ減量化の取組は着実に進展しています。

本年度は、ごみ減量化の実践につなげる啓発、食品廃棄物の削減、不法投棄問題、容器包装ごみの削減等について、視察研修や協議を行い、提言書を取りまとめました。

今後は、この提言を踏まえて、ごみ減量化施策を展開されますよう要望いたします。

1 現状

平成26年度、たつの市から揖龍クリーンセンター及びにしはりまクリーンセンターに搬入されたごみの量は、「表1」のとおりです。また、新聞、雑誌、布類など、集団回収されリサイクルされた資源ごみの量は2,181tで、各クリーンセンターに搬入された「資源ごみ」と集団回収事業で回収された「資源ごみ」の合計量(3,448t)をたつの市のごみ排出総量(28,650t)で除したリサイクル率は約12%です。

クリーンセンターへのごみ搬入状況の推移は「図1」のとおりで、前年度よりわずかに増加しています。事業系ごみの搬入状況の推移は「図2」のとおりで、近年、減少傾向にあり、事業所におけるごみ減量化の成果がうかがえます。また、たつの市全体の集団回収量の推移は「図3」のとおり横ばいとなっています。

たつの市では、広報誌、出前講座、イベント等により、資源ごみの分別、生ごみの減量化について啓発されていますが、揖龍クリーンセンターに搬入された普通ごみのごみ質分析によると、「図4 揖龍クリーンセンター搬入家庭系普通ごみ分析結果」のとおり、約28%の資源ごみと約47%の生ごみが含まれており、家庭におけるごみ減量化についてさらなる啓発が必要です。

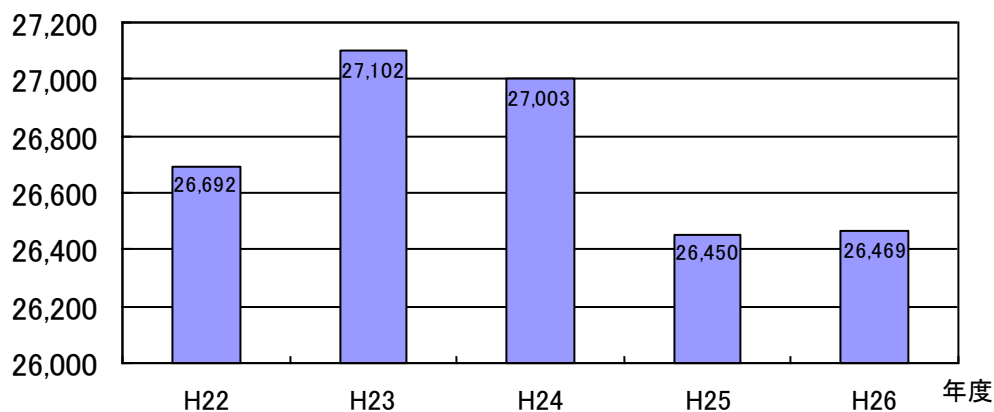
表1 平成26年度ごみ排出量

(単位：t)

	揖龍クリーンセンター	にしはりまクリーンセンター	集団回収	合計
普通ごみ	19,000			19,000
可燃ごみ		3,884		3,884
不燃ごみ		72		72
大型ごみ	1,355	286		1,641
資源ごみ	1,052	215	2,181	3,448
その他	605			605
ごみ排出 (搬入)量	22,012	4,457	2,181	28,650

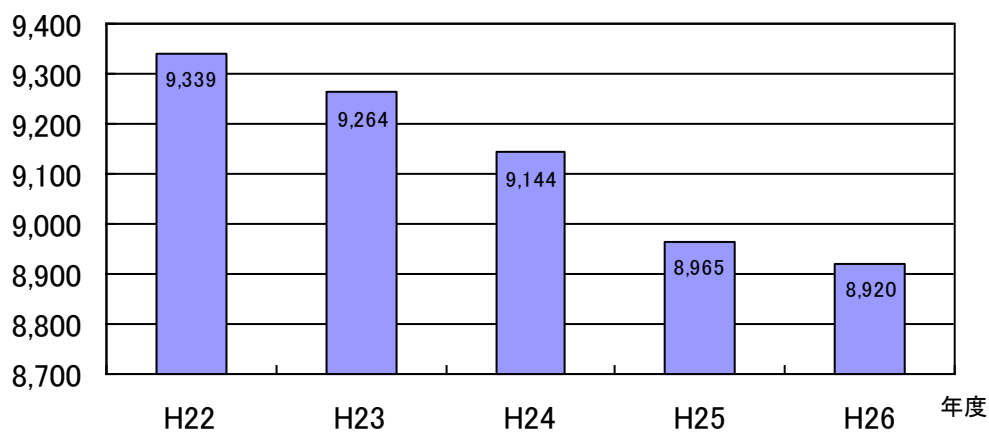
搬入量(t)

図1 搬入ごみ量(事業系含む)の推移



搬入量(t)

図2 搬入事業系ごみ量(普通・可燃・不燃・大型)の推移



回収量(t)

図3 再生資源集団回収量の推移

※新聞、雑誌、段ボール、古布、アルミ缶の回収量合計

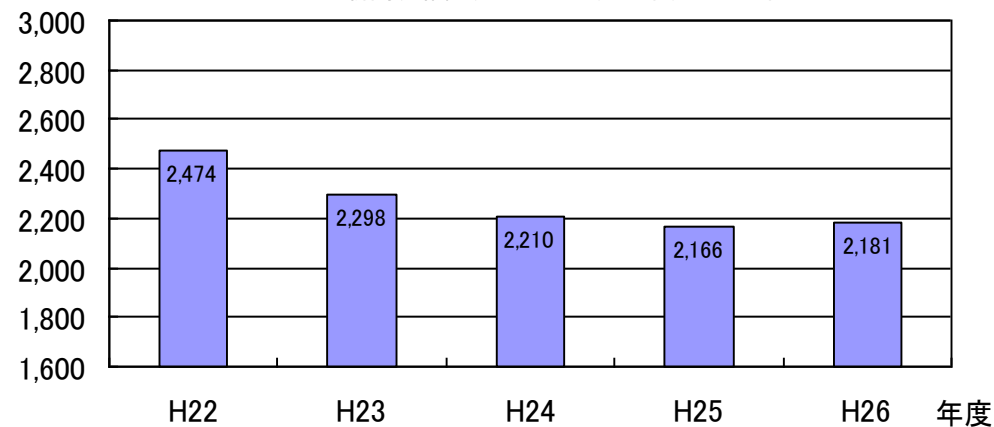
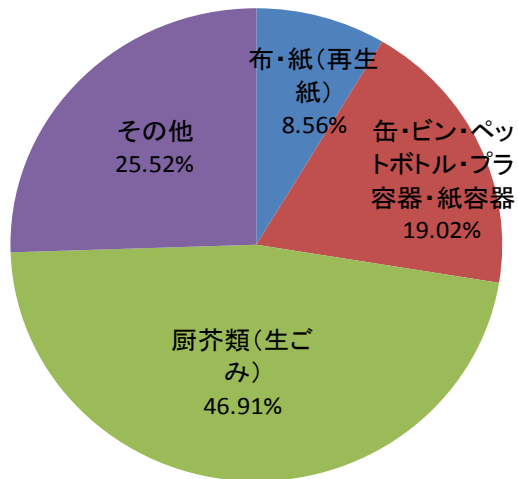


図4 揖龍クリーンセンター搬入家庭系普通ごみ分析結果



※実施日 平成28年1月22日 ※調査ごみ量合計 約63kg



再生可能な紙ごみ等



分別対象である容器包装類



厨芥類(生ごみ)



手付かず食品等

2 昨年度の提言に基づき実施された施策

(1) ごみの不法投棄対策

たつの警察署、たつの消防署と連携し、不法投棄・野焼き防止監視パトロールを実施した。

○実施日 平成27年4月27日

○不法投棄監視協力員（ボランティア）8人



○寄せられた不法投棄の情報

- ・平成26年度37件（内協力員から5件）不法投棄・野焼き防止監視パトロール
- ・平成27年度47件（内協力員から7件）（2月末日現在）

(2) ごみ減量化の実践について市民に広めること

① 減らそう生ごみ実践事業

○EMボカシ普及啓発

生ごみ堆肥化に有効なEMボカシを年間を通して定期的に製造し、市に供給する団体を募集し、製造に必要な材料を支給した。

・協力団体

広山エコグループ

たつのEM利用研究会

・パネル展示・EMボカシの無料配布

環境月間（6月）

食育月間（10月）

たつのふるさとフェスタ（10月12日）



環境月間パネル展示（御津支所玄関ホール）



たつのふるさとフェスタ（中川原公園）

○減らそう生ごみ実践講習会

たつの市のごみの現状、減量化施策について知っていただき、EMボカシの製造体験講習を行った。

- ・第1回 8月11日(火) 参加者26名
- ・第2回 12月9日(水) 参加者18名



○減らそう生ごみ実践ガイド

家庭で手軽に取り組める生ごみ減量化、堆肥化の方法を普及啓発するため、方法や効果を分かりやすく記載したガイドを作成、各戸配布した。

減らそう生ごみ! 実践ガイド

○乾燥生ごみの受け入れ

電気式の生ごみ処理機や段ボールコンポストで処理した乾燥生ごみで、家庭で使い道のないものを市で受け入れし、たつのEM利用研究会の協力を得て堆肥化し、その効果を確かめる実証実験を行った。

- ・受け入れ量 10kg
- ・堆肥化方法 EMボカシ処理
(堆肥としての効果は現在実験中)

○たつのこどもエコクラブ

環境教育として小学4～6年生を対象に実施されているたつのこどもエコクラブにおいて、年10回のカリキュラムのうち1回、「ごみの分別・減量学習」を実施した。

食品廃棄物がどこでどのように発生しているかを、遊びを通じて体験する「もったいない鬼ごっこ」を取り入れ、意識啓発を図った。

- ・実施日 平成27年9月26日(土)
- ・参加者 13名

○いずみ会リーダー養成講座

地域において、食生活の改善や食育の推進に携わる「いずみ会」のリーダー養成講座において、年10回のカリキュラムのうち1回、「環境にやさしい食生活」というテーマで講座を行った。食生活から必ず出る生ごみの減量化について啓発した。

- ・実施日 平成28年1月13日（水）
- ・参加者 19名

○食育推進会議における啓発

食育月間である10月に、環境に優しい食生活（地産地消、エコクッキング、生ごみ堆肥化）について啓発した。

②ごみゼロたつの推進事業（事業所の部）

本年度、ごみ減量化、再資源化に取り組む申請のあった10事業所・店舗を新たに、たつの市ごみ減量化・再資源化活動推進宣言の店「たつのエコマスターショップ」として認定。昨年度と合わせて33事業所・店舗となった。

市ホームページに事業所名及び特徴的なごみ減量化等の取組内容を掲載し、事業所、市民それぞれの立場でできる方法でごみ減量化等に取り組まれるよう啓発した。

- 平成27年度たつのエコマスターショップ認定事業所
 ダイエー竜野店、マックスバリュ西日本株式会社龍野店、同龍野西店、同揖保川店、日本丸天醤油株式会社、エスコック株式会社兵庫工場、株式会社平福電機製作所光都工場、タキロンテック株式会社、神姫バスツアーズ株式会社龍野支店、株式会社香山園（順不同）



認定証（盾）

③ごみゼロたつの推進事業（小学生の部）

夏休みに地域の方々の協力のもと、小学4年生から6年生の児童に、家のごみ出しの手伝い、地域のごみステーションでの立番などを体験させるとともに、ごみ・リサイクル川柳を募集した。また地域のごみ出しのマナーアップにもつながった。

- ・体験参加者 1, 257名
- ・川柳応募作品数 1, 374作品
- ・優秀作品 36作品（次ページに掲載）

(3) 資源ごみの分別徹底、5Rの実践の啓発

①出前講座

たつの市のごみの現状、減量化施策について説明するとともに、資源ご

み分別、EMボカシづくり等について体験講習した。

(平成27年度実績)

- 「ごみの出し方・分け方、再確認！」
- ・ 7月8日 御津子育てつどいの広場
 - ・ 9月7日 新宮小学校6年生
- 「水切り・堆肥化で生ごみを減らそう！」
- ・ 11月4日 新宮子育てつどいの広場



新宮子育てつどいの広場

②使用済携帯電話の回収

携帯電話やPHSに含まれる貴金属やレアメタルなど天然資源のリサイクルを推進するため、使用済携帯電話の回収について、広報やイベント等で啓発し、本庁及び総合支所の窓口で年間を通じて回収した。

- ・平成26年度回収量 98台
- ・平成27年度回収量 109台(2月15日現在)

③マイバッグ持参啓発

ごみの減量化、資源の有効活用などを目的としてレジ袋削減協定を締結した市内の量販店などから、半期に1度マイバッグ持参率の報告を受けた。

- ・協定締結店 11社23店舗
- ・レジ袋無料配布中止店舗におけるマイバッグの持参率 92%以上

ごみゼロたつの推進事業（小学生の部）

ごみ・リサイクル川柳優秀作品

- ・ごみぶくろ ななしのごんべ まいごだよ (龍野小6年 西道 駿介)
- ・お父さん ビールをのめば リサイクル (小宅小4年 入江 翔太)
- ・もったいない これがぼくらの あいことば (小宅小4年 藤多 龍星)
- ・れいぞう庫 おくにあるかも 期げんぎれ (小宅小4年 橘 和哉)
- ・マイバック 持ってことわる レジぶくろ (小宅小4年 折山 夕月)
- ・ゴミの中 光る資源(ほうせき) つまってる (小宅小4年 野田 咲希)
- ・しゅう集車 ごみの食べすぎ メタボかな (小宅小4年 川口 静乃)
- ・リサイクル 地いきのゴミの ダイエット (小宅小4年 佐藤 那緒)
- ・ごみだして もっとふかまる ちいきのわ (小宅小5年 エパサカボヌア)
- ・買いすぎず 使い切ったら ゴミが減る (小宅小6年 三木 愛華)
- ・姉さんの おふるをもらって リユースを (小宅小6年 山本 青空)
- ・ごみ出しを ためらっていれば ごみやしき (小宅小6年 勝田 一成)
- ・もえるごみ ぼくの脂肪も 燃やしたい (揖西東小4年 和田 大樹)
- ・ごみへらす 心づもりが エコ時代 (揖西東小5年 重本 晟弥)
- ・エコ活動 取り組む姿 永遠に (揖西東小6年 吉識僚太郎)
- ・ぬのぞうり 古いゆかたが よみがえり (揖西西小5年 中川 瑞規)
- ・ごみにもね 生まれかわりたい 夢がある (揖西西小5年 松芳美沙樹)
- ・すっきりと ゴミも自分も ダイエット (揖西西小5年 山口 穂峻)
- ・どっちかな たずねてみたら しげんごみ (揖保小5年 黒田真那人)
- ・それはプラ 家族みんなで エコしわけ (誉田小5年 黒田 蒼平)
- ・もったいない ごみはへったが 体重ふえた (神岡小4年 松原 一途)
- ・ごみだしは ぼくの仕事だ まかせてよ (東栗栖小4年 津島 覇)
- ・生ごみは きちんとするよ 水きりを (東栗栖小5年 堂本 琉衣)
- ・びっくりだ おばちゃん達の 分別力 (東栗栖小6年 大野 開)
- ・ごみの日は 近所のカラスも 気にしてる (香島小5年 河津 萌)
- ・心がけ 1つで決まる ゴミの量 (新宮小6年 小郷 孝介)
- ・ペットボトル へんしんするよ 文房具 (越部小6年 喜多村 萌夢)
- ・ありがとう おだてられて ごみだす父 (半田小5年 後藤 優歩)
- ・ごみじゃない ビンやパックは リサイクル (神部小6年 恒藤 岬)
- ・資源ゴミ 生かすも殺すも 君しだい (神部小6年 金子 楓菜)
- ・使えるか さいごに一度 考えよう (河内小4年 木崎 悠久)
- ・もったいない のこさずたべたら ごみもへる (御津小4年 岡本 陽生)
- ・ポイすては ぜったいするな 町のため (御津小5年 山本 翔也)
- ・分別は ぼくにもできる まず一歩 (御津小5年 中川 裕稀)
- ・リサイクル ごみを資源に する魔法 (御津小5年 野本 朋希)
- ・祭りあと 楽しい数だけ ごみの山 (室津小6年 吉村 彩加)

(順不同)

3 提言

毎日の生活で排出されるごみは、私たちにとって、とても身近な環境問題です。私たちの心がけ次第でごみの排出量は大きく変化し、将来の地球環境に影響を与えます。資源の枯渇や地球温暖化を防止するためにも、市民、事業者、行政がそれぞれの立場や責務において、創意工夫をもってごみの減量化、環境保全活動等に取り組むことが必要です。

たつの市におけるごみの減量化等を推進するために、本年度協議した内容を踏まえ、次のとおり提言します。

(1) ごみ減量化の実践について市民に広めること

ごみの減量化は、市民一人ひとりが意識を持って取り組むことが大切です。出前講座や広報、イベントなど、あらゆる機会をとらえ、たつの市のごみの現状について市民に知らせ、ごみ減量化のさまざまな方法や新たな取り組み等を市民に紹介し、それぞれの立場で自分に合った方法で取り組めるよう啓発することが必要です。

- ① ごみの出し方について、改めて説明会を実施するなど、資源ごみの分別徹底を啓発する。
- ② 再生資源集団回収運動(リサイクルデー)への積極的な取組を啓発する。
- ③ EMボカシづくりや段ボールコンポストづくりなどを体験する機会を提供し、家庭で手軽に取り組める生ごみ堆肥化の方法を普及啓発する。
- ④ 使用済み携帯電話等のリサイクルについて啓発する。
- ⑤ 市内に店舗のある事業所に、レジ袋削減協定締結を呼びかける。
- ⑥ 環境保全活動に取り組む事業所を優良事業所として認定し、広く紹介することにより、市全体に活動の輪を広げる。

(2) 食品廃棄物の削減について啓発すること

我が国では、本来食べられるのに廃棄されている「食品ロス」が年間500万トン以上発生しています。食材の使いきり、食べきり等を啓発し、消費者の「もったいない」という意識の高揚に努めるとともに、飲食店や宿泊施設に食品廃棄物の削減を呼びかけることが必要です。

(3) ごみの不法投棄対策を強化すること

あとを絶たないごみの不法投棄について、市民に注意喚起するとともに

監視体制を強化し、未然防止、早期発見及び拡大防止に努めることが必要です。

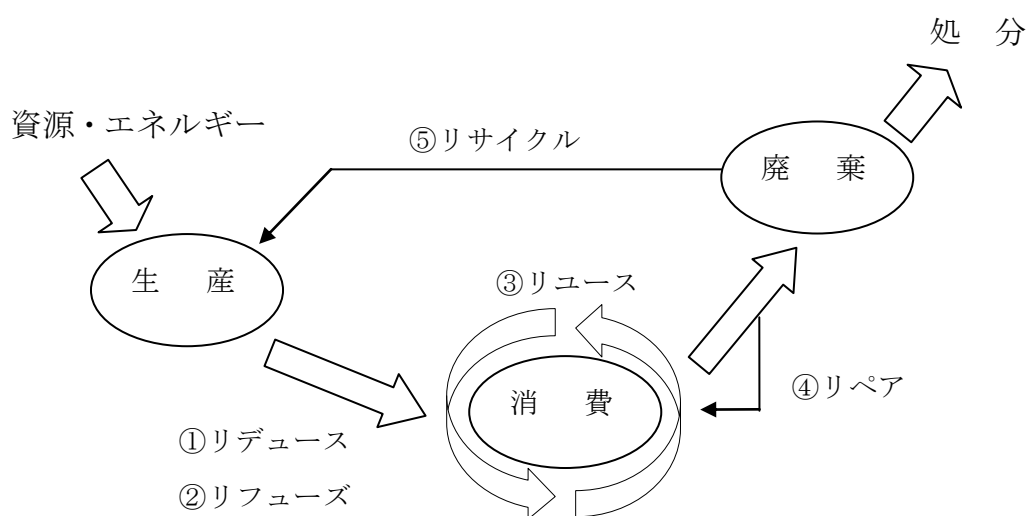
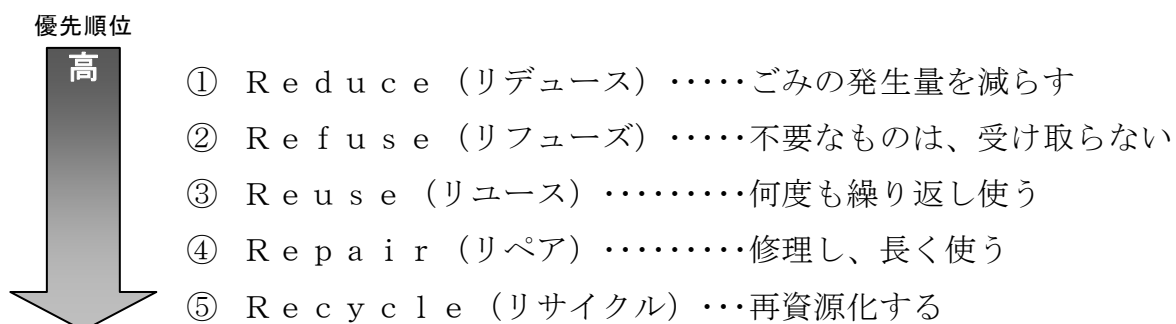
- ① 国の不法投棄監視ウィーク等に合わせ、広報誌等で啓発するとともに、関係機関との連携強化を図る。
- ② 不法投棄監視協力員をさらに募り、パトロールを充実させる。

(4) 視察研修で学んだことを施策等に反映すること

視察研修を無駄にすることなく、市の施策に反映することが必要です。

- ① 再生利用（リサイクル）によるごみの減量化には限界があるため、ごみの発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）を優先して啓発すること。
- ② 容器包装の減量化について、メーカーや販売店などに働きかけること。
- ③ 簡易包装等、容器包装の少ない商品の購入を消費者に啓発すること。

循環に関する5Rの概念イメージ



4 資料

(1) 平成27年度協議経過

	開催日	協議・報告事項等
第1回	平成27年6月25日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・委嘱状交付 ・平成26年度ごみ減量化施策提言書説明 ・平成26年度ごみ搬入量の推移について ・平成27年度たつの市環境関係事業説明 ・平成27年度兵庫県のごみ減量化施策説明 ・平成27年度会議開催計画について ・視察研修の希望調査について
第2回	平成27年10月19日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度清掃事業概要(平成26年度事業実績)報告 ・ごみゼロたつの推進事業(事業所の部)エコマスターショップ申請状況について ・ごみゼロたつの推進事業(小学生の部)ごみ・リサイクル川柳優秀作品の選考 ・視察研修について
第3回	平成27年11月26日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・視察研修(NPO 法人ごみじゃぱん、アサヒ飲料(株)明石工場) ・ごみゼロたつの推進事業(事業所の部)エコマスターショップの認定について ・ごみゼロたつの推進事業(小学生の部)ごみ・リサイクル川柳優秀作品の選考結果について
第4回	平成28年2月8日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量化施策提言内容協議
第5回	平成28年3月14日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量化施策提言書手交(まちキラリ会議)

(2) 先進地視察

実施日：平成27年11月26日（木）

視察先：NPO 法人ごみじゃぱん（神戸市、神戸大学内）

アサヒ飲料(株)明石工場（明石市）

視察参加者：10名（委員7名、事務局3名）

視察参加委員

役 職	氏 名	選 出 母 体
会 長	山本 榮子	たつの市連合婦人会
副会長	堀 義範	たつの市連合自治会
委 員	重本 文夫	たつの市老人クラブ連合会
委 員	岡田 千榮	たつの市消費者協会
委 員	藤井 環	龍野商工会議所（女性会）
委員代理	野村 圭佑	兵庫県西播磨県民局（代理出席）
委員代理	北川 満	にしはりま環境事務組合（代理出席）

（敬称略）

事務局

役 職	氏 名	所 属
課 長	堀 謙一郎	たつの市市民生活部環境課
主 幹	土井 富生	たつの市市民生活部環境課
副主幹兼係長	竹北 嘉子	たつの市市民生活部環境課

NPO 法人ごみじゃぱん

1 概要

- ・神戸大学経済学部の学生を中心として活動する NPO 法人
- ・設立 10 年目を迎える
- ・容器包装ごみの削減をめざし「^{へらそう}減装ショッピング」を提唱

2 減装ショッピングについて

全国的に最終処分場の容量が減少していく中、リサイクル率も頭打ちの状態です。これ以上伸びが見られない。これは、リサイクル料金（企業負担）が廃棄物の処分料金に比べて高コストであることが原因だと思われる。

「^{へらそう}減装ショッピング」は、リサイクルではなく、家庭ごみの多くを占める容器包装ごみを、買うときから減量する「リデュース」に着目したもので、消費者が、同様の商品と比べてより容器包装が少ない商品を選び、買い物時点からごみを減らしてもらおうという運動である。

日用品、食料品について細かく（約 100 分野）カテゴリー分けし、同じカテゴリーに分類される商品ごとに、容器包装と中身を、分けられる限り分けて計測、中身に対する容器包装の重量がより軽い物を「^{へらそう}減装商品」として独自に認定している。

減装ショッピングの普及のために、減装商品として認定したものを店頭 POP で目立たせ、店頭イベント、講演、出前授業などで活動紹介をする。また、主婦のロコミ、メディア等を通じて活動を広げていく中で、活動が評価され、グッドデザイン賞、3R 功労者表彰、今年度においては低炭素杯金賞など、環境に関するいろいろな賞を受賞。

- ①消費者が、容器包装の少ない商品の価値を認識する。
- ②消費者が、買い物時点で容器包装の少ない商品を選ぶ。
- ③メーカーが、容器包装が簡易なものでも売れることを認識し、容器包装を軽くする。
- ④市場全体の容器包装が軽くなる。
- ⑤社会全体で容器包装ごみが減る。

消費者からメーカーへ、そして社会全体へのボトムアップが理想。

協賛企業は、現在 5 社。商品メーカーのほか容器包装メーカーも含む。

3 課題

企業としては、リサイクル料金は処分費用よりも高くつくことから、容器包装を減らしたいが、容器包装は消費者の目を引くという効果があるため、

簡易にすることにより目立たなくなり売れなくなつては本末転倒である。また、商品メーカーにおいて容器包装を軽くすることによる実際のコスト削減は1商品あたり1円にも満たないが、消費者は価格に反映されることを期待される。そのあたりの折り合いが難しい。

各地でイベントなどを通じて普及啓発に努めており、どこにおいても、「とてもいいことだ」という好感触がある。しかし、消費者に簡易包装が選ばれなければ、メーカーへのボトムアップには至らない。

個包装、化粧箱など、ニーズに応じた容器包装の価値を認めたいうえで、中身が同じであれば、より簡易な包装の商品を選ぶという意識付けをすることが必要である。



アサヒ飲料（株）明石工場（工場見学）

概要

- ・日本最大級の生産工場で「三ツ矢サイダー」「WONDA」「十六茶」など製造
- ・お茶のPETボトルは工場内で製造されている
- ・1998年には、製造工程から出る全ての廃棄物の再資源化を達成。

例) 廃棄ペットボトル→従業員のユニフォーム

お茶・コーヒーかす→堆肥化

- ・2000年環境マネジメント ISO14001 の認証取得

(3) 要綱

たつの市ごみ減量化推進会議設置要綱

(設置)

第1条 たつの市のごみ減量化、再資源化、再生利用、環境美化活動などのごみ問題及び環境衛生について協議し、ごみの適正処理と生活環境の向上を図るため、たつの市ごみ減量化推進会議（以下「会議」という。）を設置する。

(職務)

第2条 会議は、次の事項について協議する。

- (1) ごみ問題の調査、研究に関すること。
- (2) ごみの減量化、再資源化運動の推進に関すること。
- (3) 環境美化活動の啓発に関すること。
- (4) 環境衛生に関すること。
- (5) その他目的達成に必要な事項

(組織)

第3条 会議は、委員30名以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 関係団体を代表する者
- (2) 事業者を代表する者
- (3) 関係行政機関の職員

3 前項の委員のほか、専門の事項を協議する必要があるときは、専門部会を置くことができる。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 会議に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれらを定める。

- 2 会長は、会務を総理し、会議を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は、会長が招集する。

- 2 会議は、第2条の事項について必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

(庶務)

第7条 会議の庶務は、環境担当課において処理する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行の日以後最初に開かれる会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

(4) 委員名簿

たつの市ごみ減量化推進会議委員名簿 (平成28年3月 日現在)

役 職	氏 名	選 出 母 体
会 長	山本 榮子	たつの市連合婦人会
副会長	堀 義範	たつの市連合自治会
委 員	重本 文夫	たつの市老人クラブ連合会
委 員	岡田 千榮	たつの市消費者協会
委 員	大西眞由美	たつの市PTA協議会
委 員	山根喜代浩	たつの市連合子ども会
委 員	橋本 梅子	たつの市地球温暖化防止活動推進員連絡協議会
委 員	藤井 環	龍野商工会議所 (女性会)
委 員	清原 寿彦	たつの市商工会
委 員	四方 俊郎	兵庫県西播磨県民局
委 員	伊藤 裕明	揖龍保健衛生施設事務組合
委 員	梶生 隆弘	にしはりま環境事務組合
委 員	小河 博信	たつの市市民生活部

(敬称略)